

## 日々の授業で意識してみませんか？

授業改善部会からはこれまでに、学力テストの分析やチェックリストの分析から授業改善に生かせそうなことを提案してきました。一度、これまでに提案してきたことをまとめますので、ぜひ一つでも二つでも取り入れ、授業改善に役立ててください。

### ① 全国学力・学習状況調査の分析から

○体験的な活動を取り入れてみよう。(算数)

→実際に操作をしてみたり、具体物を用いたりすることで実感を伴った理解になる。  
算数の問題を日常の場面で使ってみることも、大切。

○自分の考えをまとめさせる場面では、制限をつけてみよう。(国語)

→だらだらと長く書くのではなく、短く端的に表現する力を付けることが大切。  
制限の例：字数の制限(何文字以内、何行以内)、時間の制限(何分以内)

語句の制限(○○という言葉は絶対使う、○○という言葉を使わずに表現する)

### ② 東小学校の子どもたちの強み・弱みの分析から

○話を聴く力や姿勢を伸ばしていきましょう。

→話を聴く力はとても大切です。学力を伸ばすには聴く力が何よりも大切と言われる先生もいらっしゃるくらいです。大切なことは、相手が言っていることを理解しようとしながら聴く姿勢です。そのために、再現活動やモデリングなどを繰り返し用いながら聴く力を伸ばしていきましょう。

### ③ チェックリストの分析から

○協働解決での場の設定を意味のあるものにしていきましょう。

→今回のチェックリストの項目の中で一番平均点が低かったのが「協働解決での場の設定」の項目です。私も反省なのですが、変な間が出来たときや教師の都合で意味の無い話し合いの場面を作ってしまうことが多々あります。そうではなく、子どもたちにとって話し合う意味のある協働解決の場にしていきましょう。そのために、同じ意見の子と交流させるのか、異なる意見の子と交流させるのか、交流の道具は何にするのかなど具体的な意図をもって協働解決を仕組んでいきましょう。そして、何よりも大切なのは、子どもたちの「話し合いたい! 友達の意見を聞いてみたい!」という思いを高めることです。子どもの思考にズレを生む工夫などを取り入れ、意味のある話し合い活動にしていきましょう。

### ④ 市学調の分析から

○登場人物の気持ちの変化に着目した授業をしていきましょう。

→場面ごとの気持ちを捉えることももちろん大切ですが、物語全体を通して、登場人物がどのように変化したのかを捉えることも大切です。そのために、物語を一文で表す活動などを取り入れていきましょう。(りいこがふしぎな出来事をおして、しょんぼりした気持ちから、明るい気持ちに変わる物語)

○序論・本論・結論(はじめ・なか・おわり)を叙述のもとに明らかにする力を付けていきましょう。

→奥山先生の授業でもあった、「説明文の家」などの思考を助けるツールを使っていきましょう。各段落の内容を一文要約させるのも思考の助けになります。

授業改善の手助けに少しでもなれば幸いです。一学期も残りわずかですが、頑張りましょう!